

LEE'S レター 哲樂の中庭 2025 年立冬

「一陽来復」の復とは冬至をさすとか
まだ立冬ですが、「冬来たりなば春遠からじ」

万博閉幕からひと月も過ぎていませんが、もうずいぶん前のように感じます。日が短くなり、気温も秋らしくなってきました。2025 年も残りわずかです。

No.39 (通No.118)
2025 年 11 月 7 日

本を

読まずに済む世界か人生か

「やっぱり、子供のうちから読書をさせないとだめ。運動でいえば基礎体力をつけるようなものだから」。猛暑まっさかりの八月初め

四年ぶりに訪ねてくれた知人。情報系の研究に携わり、AI にも詳しいので、この先どうなるか教えてもらった後の一言です。

今年三月受講したオンラインセミナー。講師は『読書効果の科学』（猪原敬介）の著者、大学の先生。科学的なエビデンスを紹介しながら、直接効果（語彙力や共感力など）と間接効果（将来の収入など）、さらに証拠はまだ十分ながら、ストレス低減、熟慮力、創造性への効果を指摘。

「ハウ・ツー本は二十代まで、それ以降は概念や理論など、抽象度の高い本を読むこと」。社会人の読書について、アフリカのどこか

の国の日本大使館職員だった京都 FM のパーソナリティーが番組で語ったこと。

「読書とは、本業以外の本を読むこと」とは、大企業経営者で詩人・作家でもあった人。米国の「アスペン研究所」では七十年以上前から経営者向けに古典と哲学のセミナーを開催しているとか。

今も続くウクライナの戦い、ポピュリズム、あからさまな脅し為政の国トップ、「我々は、我々が歴史から何も学ばないということを経史から学ぶ」とドイツの哲学者「ヘーゲル」は言ったとか。

AI 社会はこれからが本章、長いものに巻かれず、自分を生きて他の人もいきる生き方をしようと模索する人の助けに先人・偉人・達人の智慧が要る。本にある。

節目・転機のその先を見すえて動く人

大阪市男女共同参画センター「クレオ大阪」で15期続くセミナー『プロ講師になろう塾』。自分ならではの業の発展に、講師で足がかりをつけましょうというもので、受講者は独自性のあるセミナーを企画し、提案書にまとめ、7, 8人のコメンテーターを前にプレゼン、実際に講師のチャンスもある塾。受講する人は、創業塾などと同様、何かしら転機を迎えている人が多い。今年度も受講中に開業した人、仕事上の相手と関係を絶った人、など等。行動して、混沌として、でも動きをとめない先に新しい未来が待っています、ね。



本の世界も宇宙、出逢いは奇遇

無限の先達、必ずいる師、〈発掘〉を待つ

読書に馴染んだのは 10 代半ばでした。かよっていた寺子屋みたいな塾の「読書会」のおかげです。塾の門下生たちが先生とつとめるこの塾、塾長をはじめ、いつもみな本を読んでいた。大人たちのそういう姿をみたのがよかったのだと思います。

先生がたの読書会に、なぜ自分が参加することになったのか、よくわからない。当時は行くのも億劫でしたが、今となっては、大人たちの働きかけと計らいに感謝しています。精神形成の土台をつくってもらったような。

読書会の課題本は多様でした。大衆小説といわれる作家の本もあった。次の課題にそんな一冊が挙がった時のことがすごく印象に残っています。塾長が皆に伝えたところ、門下生の若い先

生の一人が小声で、「そんな本…」。

間髪いれず塾長が、「君！それはいかんぞ！」と厳しく諭した。何を言わんとしているか、皆わかった。わたしもわかった。この様子と雰囲気を持ってきたのは貴重な体験でした。

この読書会のおかげで、自分から進んで本を読むようになった。「堀田善衛」を知ったことで本を読む意味を感じるようになったのだと思います。自覚はありませんでしたが。

人間のこと、社会のこと、生きることなど等、自分が生きていく上でどうしても考えざるを得ないことの、考えるヒントが本にある。本が好きなわけでも、読書家でもなく、ただ、自問して自答のための矛先を得るのに本が一

番てっとり早い。買わなくても図書館を利用できる。

「堀田善衛」。訃報には「日本の良識、逝く」と新聞に大きく書かれました。「モンテニユ」。500 年以上も前の人なのに、現代を生きて語りかけてくれるように感じました。

2022 年 8 月 8 日に 88 才で他界した「中井久夫」。知人の勧めで一冊読んだのは 25 年前。おもしろいと思いながらも先に進むことはなかった。なのに 3 年前〈再発見〉して、読んだ 5 冊だけでも、教えられたこと数知れません。

若い頃じかに出逢った一人と、読書でめぐりあった三人の「恩師」たち。あなたの恩師たちが未だどこかに埋もれていませんか。ぜひとも発掘を。



時に立ちどまり 〈先を読む〉

「女性チャレンジ応援拠点」の『拠点ゼミ〈車座オープンサロン」時に立ちどまり先を読む 2025 年秋』が開催されます。

ゆく 2025 年の流れから、来る 2026 年の兆しを読み、新年の「計」のメインテーマを呼び込む、そんな会です。

初めての方も、他の参加者のお話からやる気と実践のヒントが得られるはずです。どうぞふるってご参加ください。

●日時：11月29日（土）10時

●場所：クレオ大阪中央館



朝のルーティン、1000 本超

朝に本の音読を始めて 3 年すぎました。その気になったのが先に書いた「中井久夫」の他界した日。訃報は翌日の新聞で知ったのですが、7 年前に買ってあった「老子」2 冊を、「ために読んでみます」と始めたのでした。

老子を読んだなら、孫子も。ふたつを読み終えた時点で 8 カ月、すっかり習慣化して、『モンテニユ』と『数学する人生岡潔』の再読、「中井久夫」、そして今は『易経』を読んでいます。8 分程度の読みで、1000 本は超えたでしょうか。

録音は誰かのためになればとサイトにアップしていますが、まずは自分のためになっています。スマホでくり返し再生して復習というか、生活の励みにするとか。

ひょっとすると、老後の愉しみ？